

京都と観光産業 【第4回】

ZEF COFFEE ARTS/株式会社SOE 川本典美

自己紹介

- 名古屋生まれ大阪育ち
- 学生時代は神戸 大学では理論社会学、現代社会論を専攻
- 体が弱く、一般企業での就労が困難だった
- 地元の社会福祉法人に就職し、高齢者施設の企画、管理、運営
- スウェーデンに留学し「自己決定」の概念の日本との違いに感銘を受ける
- 一杯のコーヒーのもつ可能性を最大限に引き出すべくコーヒー事業へ参入
- 毎年、ヨーロッパ、北米、アジアのコーヒー展示会、農園を訪ねて走り回り、多種多様な生活様式、市民生活に触れる
- 関西の有名観光地である祇園白川と神戸南京町でコーヒースタンド兼レモネードスタンドを営業
- 京都五条の焙煎所で自家焙煎

なぜ、京都祇園白川で店をもったか

- 美しい、これぞ京都！という町並みに魅せられた！
- コーヒー消費量日本一の京都市で！
- 外国人観光客の多い京都でエスプレッソを！

京都祇園白川の現状

- 新型コロナで現在は外国人観光客は限りなくゼロに近い
 昨年の京都店の売上の90%が外国人によるものだった
- 前年同月比で売上は10分の1以下
- GOTOトラベルで日本人観光客は若干増えてきた印象
- 「かつての京都が帰ってきた」という言葉をよく聞き、日本人観光客がかえってきたとされるが昨年とは比べものにならない

⇒ 外国人観光客におもねりすぎていなかったか？
 なぜ、そうなったのか？

地縁、血縁のない場所でのビジネス

自分自身のビジネスの価値をアップさせることが大切

そのために考えることは（商材以外のことで）・・・

- 自分の店のある場所をどのような場所にしたいか
- 店のある場所の価値をあげるためにどうすべきか
- 人とのつながり、賑わいがあってこそその商売
- 風が吹けば桶屋が儲かる式発想
- 人任せ、環境任せ、歴史伝統任せにできないまちづくり

私がしてきたこと

- 敷居が高いといわれる京都で私がしてきたことは
 - 転入したときのご近所への挨拶
 - 道で出会ったときなどにも、必ず挨拶
 - 地域のルールに守る
 - 自分の店を清潔に、その場所にふさわしく整える
 - 地域の行事には積極的に参加する

京都に限らず当たり前のことばかり
自分自身が地域の一員であり、街づくりに対して責任があると認識

オーバーツーリズムという視点からの問題点 (祇園白川の場合)

- 私有地へ無許可立ち入り
- 植え込みへの立ち入り
- 植木の破損、持ち帰り
- 竹垣等の破損
- 舞妓、芸妓へのパパラッチ
- 排泄のマナー、ごみ捨てのマナー
- 車道での写真撮影、横に広がって歩行

オーバーツーリズム以外の視点からの問題点

- 写真撮影（国内外を問わず結婚式の前撮り）
- 住民の高齢化
- 京都以外の資本の参入

新型コロナの影響でオーバーツーリズムの問題点の影は薄れたがこの機会に祇園白川の将来像について考えるべき

京都祇園白川 VS 神戸南京町

	京都 祇園白川	神戸 南京町
名称	祇園白川景観づくり委員会	南京町商店街振興組合
目的	伝統的な建物の維持、保全と文化の共有と継承	「南京町」という商店街を管理し、商店街の発展を促進
web	gion-shinbashi.jp	nankinmachi.or.jp
例会	1回/月の開催だが新型コロナの影響で今年度は未開催	複数の部会があり、2～3回/月開催 現在も開催し情報交換が頻繁
活動	初午、地蔵盆などのお祭り、掃除など	春節、中秋祭、ランタンフェスティバルのイベントや掃除、見回りなど

「景観づくり」の限界

- 「景観」とは何か？
- 「ニオイ」は景観か？
- 「景観づくり」が、商売の仕方を規制できるのか？
- 日本は「消費社会」 Society oriented by consumption である

存続していくとは、どのようなことか？

- 祇園白川が存続するためには、「賑わい」があつてこそ。
- 「賑わい」をもたらすものは何か？
- 社会構造が変わる中、伝統的な手法で「賑わい」を創出できるか？
- 伝統として保護されたときに発展はあるのか？

祇園白川にもとめられるもの

- どのような地域として将来につなげていきたいのかという

グランドデザイン